

# みんなの力でもっと魅力的なまちに

## 「わづか まちづくりびと 交流サロン」

### 交流サロン



12月8日(日)、ふれあい工房てらす和豆香で第6回「わづかまちづくりびと交流サロン」が開かれ、町内外から22人のみなさんの参加がありました。当日は町長の飛び入り参加もありました。



みんなで知恵を出しあいました

今回は、各グループから11月2日・3日に開かれた「茶源郷まつり」での取り組みや現在の活動状況の報告があり、その後、今後の活動計画について話し合われました。各グループの今後の活動は、次

のとおりです。

- 和東茶お菓子づくりを楽しむ会…専門家を招いてお菓子作り教室を開催
- 豊かな森をつくろう…山林の見学・調査、セミナーへの参加等を引き続き実施
- フラワーガーデンをつくろう…和東茶カフェ周辺で花壇作り
- 和東に未来づくりセンターをつくろう…和東町内の情報発信や和東町に關心のある人とのコミュニケーションツールとして、フェイスブックページを開設

各グループの活動により、和東町の魅力がさらに増すことが期待されます。

このサロンは、今後も継続して開かれますので、興味を持たれた方は、和東町地域力推進協議会事務局0774-780-3001(代表)までお電話ください。



# 新たな公共交通を

## めざして 奈良県山添村 コミュニティバス視察



苦労したことやアドバイスをお話いただきました

和東町交通手段確保に関する懇話会では、さる12月17日(火)に、奈良県の山添村で、地域の方が運転手を務め、地域が主体となって運行されている自主運行バス「東豊地域コミュニティバス」の視察を行いました。職員や運行協議会のみなさんの説明を聞いた後、運行にあたって苦労したことや課題等を質問し、バス停の確保が難しかったことや、今後、継続的に運転手を確保していくことが課題となってくることを伺いました。その後、実際にコミュニティバスに試乗し、ルートやバス停等を見学しました。

懇話会では、今回の視察を参考にしながら、和東町の実状にあった交通体系の構築をめざしていきます。





# お正月あそび

わづかほいくえん



火の玉が飛んでいた は〜い

1月9日(休)和東保育園では、お正月遊びが行われました。

この日のお正月あそびは、異年齢グループで行われ、5歳児がお兄さん・お姉さん役に、そして3・4歳児が弟・妹役になり、3人から4人のグループを組み「すごろく」、「かくわらい」、「作ってあそぼう」のコーナーで楽しみました。

年長の園児は小さな子が迷子にならないように気を配り、手をつないで歩く、ほほえましい姿も見られました。また福笑い

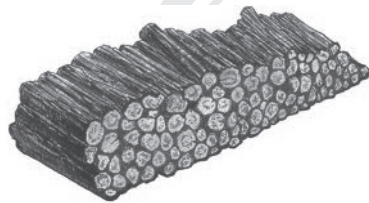


せみが背くらべ は〜い

のコーナーでは、順番に目かくしをして、目と鼻と口を順番に並べ、できあがりを見て、笑いの渦が起こっていました。作って遊ぼうのコーナーでは、牛乳パックを使ってコマを作り、出上がったコマを使ってグループで、どのコマが最後まで回るかを競っていました。5歳児が作った大型力ルタをグループ別に行い、取れた絵札の枚数に一喜一憂する姿が見られました。この日は給食やおやつもお正月遊びのグループで食べ、年齢のちがう園児同士で楽しく過ごしました。

## 和東町茶業史つうしん

Vol. 8



2月4日は立春。暦の上ではこの日から「春」ですが気候は寒さが頂点になる時期です。この寒さを乗り切るため、かつて人々は「割木（薪作り）」や「シバ（小枝集め）」、「ゴモクかき（焚付け集め）」をしに山へ向かったのです。割木にはナラや松などの雑木を使い、シバはそれらの枝、ゴモクは主に松葉を指

しました。それらは人々にとって、電気・ガス以前の大切なエネルギー源でした。これも、製茶の機械化により、姿を消したものの一つです。昔の人々は、山の大きな恵みを今よりもっと身近に感じ、たくさんいただいていたのかもしれない。ね。

（取材者：和東町観光振興協議会 茶業民俗調査員）

### ご寄附ありがとうございました

「和東町ふるさと応援寄附金基金」へ次のとおりご寄附をいただきました  
(平成25年12月)

氏名	住所	寄附金額
匿名希望	奈良県橿原市	20,000円
山中 賢	綴喜郡井手町	30,000円

ありがとうございます。お寄せいただいた寄附金は、和東町のまちづくりのため有効に活用させていただきます。

